

EUROPEAN PATENT OFFICE

Patent Abstracts of Japan

PUBLICATION NUMBER : 60042108
PUBLICATION DATE : 06-03-85

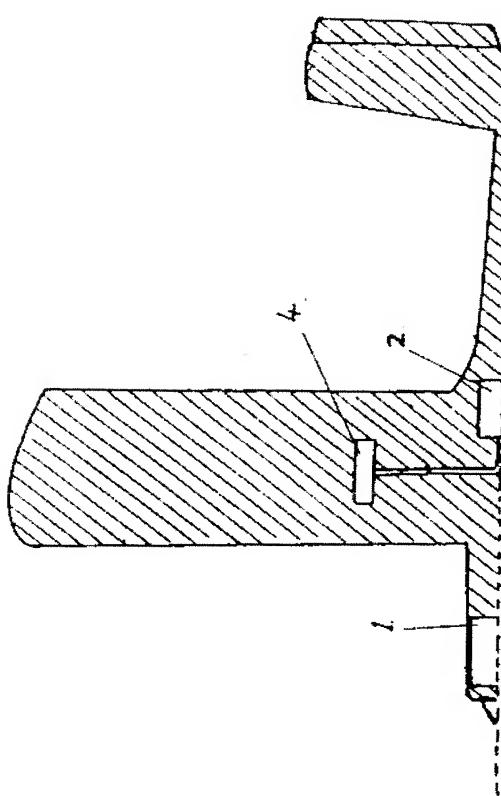
APPLICATION DATE : 19-08-83
APPLICATION NUMBER : 58151173

APPLICANT : MAKITA TARO;

INVENTOR : MAKITA TARO;

INT.CL. : B60F 5/02 B64C 25/34

TITLE : SELF TAXING AIRPLANE



ABSTRACT : PURPOSE: To make it possible that an airplane taxis on the ground by itself and to shorten the time required at an airport, by attaching power driving wheels at the under part of the airplane.

CONSTITUTION: A power driving wheel 4, which is driven by an engine 2 for the ground-running, is attached to an airplane. In this way, the airplane can taxi by itself with the aid of the engine 2 for taxiing and the driving wheel 4. Consequently, the time required at an airport can be shorten.

COPYRIGHT: (C)1985,JPO&Japio

⑩ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A) 昭60-42108

⑬ Int. Cl. 4

B 60 F 5/02
B 64 C 25/34

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和60年(1985)3月6日

6948-3D
7615-3D

審査請求 未請求 発明の数 1 (全2頁)

⑮ 発明の名称 自走式航空機

⑯ 特願 昭58-151173

⑰ 出願 昭58(1983)8月19日

⑱ 発明者 牧田 太郎 神戸市須磨区月見山本町1-1-2

⑲ 出願人 牧田 太郎 神戸市須磨区月見山本町1-1-2

明細書

1. 発明の名称 自走式航空機

2. 特許請求の範囲

航空機の下部に動力駆動輪を取り付けた自走式航空機

3. 発明の詳細な説明

この発明は航空機の下部に動力駆動輪を取り付け、自力で地上を走行できる様にしたものである。

従来の航空機、特に飛行機は、空港間を結ぶ「点から点へ」の輸送機関で、自動車・鉄道等の併用が必要だった。又、空港に広大な面積が必要なため都心部での建設は困難で、「戸口から戸口」の所要時間は短縮されないのが現状である。

これらは民間航空の発展に大きな妨げとなってきたが、本発明は航空機の下部に動力駆動輪を取り付けることでこの問題を解決したものである。

自走式航空機は「空港まで」と「空港から」を自力で地上走行できる一方、空中性能は従来の航空機と同等であるから、中距離以上の輸送について、「戸口から戸口」の速度は全輸送機関中最高

のものとなりうる。

この他、一般の飛行機に動力駆動輪をとりつけると、短距離離陸が可能となる。これは、停止状態からの加速についてプロペラよりも車輪の方が効率がよく、短距離で離陸速度に達しうるからである。

なお、車輪の駆動力は、飛行用のエンジンを流用するものと、専用のエンジンを用いるものが考えられる。

4. 図面の簡単な説明

第1図は自走式飛行機の立面図

第2図は同1部断面図

第3図は同平面1部断面図

第4図は自走式回転翼機の立面図

第5図は同平面1部断面図

1は飛行用エンジン

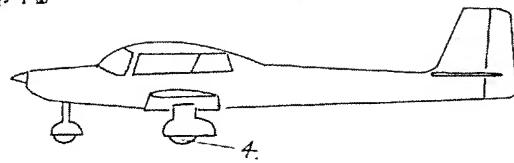
2は地上走行用エンジン

3は兼用エンジン

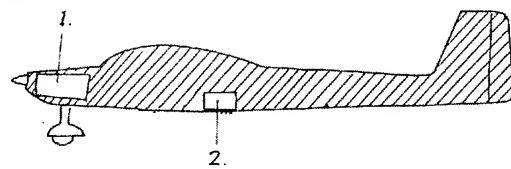
4は動力駆動輪

特許出願人 牧田 太郎

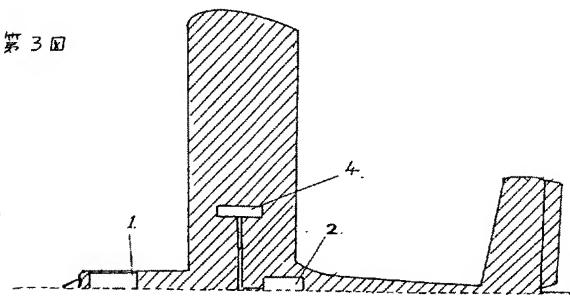
第1図



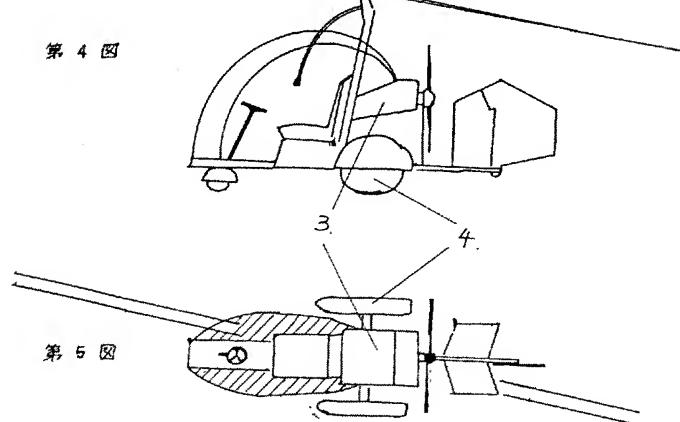
第2図



第3図



第4図



第5図

